

第1回山形県文化推進委員会における意見概要

日時：令和5年9月14日（木）14：00～15：30

場所：あこや会館大ホール

《意見交換テーマ：文化をめぐる現状及び課題》

〈各委員の意見概要〉

- コロナ禍の終息が見え、置賜地域でも一斉に各団体が活動を始めたが、説明にもあったとおり、現実が高齢化が進んでいる。以前は60歳で仕事を辞めて文化の担い手になった人達が、今は働き手であるため、担い手にならない。県を跨いで活動やユニークな活動をされているそうした若い世代の方は沢山いるので、つながるような補助、支援があればと思う。
- 観光面では、友達が米沢に来た際に、上杉公園や笹野一刀彫に連れて行くととても喜ばれる。テレビでも、沖縄で食事しながら民族衣装・民族芸能を堪能できたり、スペインでフラメンコを見ながら食事したりと体験型が好まれていることを目にする。山形でも花笠や紅花染めの体験などの企画があればいいと思う。
- やまぎん県民ホールの開館で、バレエやオペラなど今まで東京などに行かないと味わえなかった演目を色々味わわせていただき感謝している。
- 地域の資料館の来館者を継続的にどう増やしていくかが課題となっている。資料館や民俗学・歴史学は興味がある人が一部に限られるため、継続的に来館者を呼ぶのは難しいとの話が出るが、山形らしさやその地域独特の文化を前面に出すような企画展を開催することによって、地域住民の新たなやる気に繋がっていくのではと感じている。
- 地域に移住者が増えきており、移住者のコミュニティが立ち上がってマルシェやイベントを開きたいと最近盛り上がっている。その一方で、地域に住んでいる方々がもっとやる気になるような仕掛けが必要と感じている。
- 地元行事が今年復活する話があったものの、復活出来なかった。改めてコロナ禍の影響が大きいと感じた。地域住民の方々が、どのようにしてモチベーションを復活させていくかが大事になっている。
- コロナ禍の影響で祭りや行事、伝統芸能等は活動を中断するなど、地域の方や団体の方、保存会の方が大変な思いをしたと思うが、それを乗り越え、ようやく今年度になって、その辛抱強さが色々な形で出てきている。
- 先日、新聞の全国紙で、鮭川村の鮭川歌舞伎を大きく取り上げていただいた。山形県内では農村歌舞伎が非常に一生懸命活動されており、鮭川歌舞伎は山形に6つある農村歌舞伎の一つで、その先頭を走っているのが鮭川歌舞伎である。コロナ禍で原点に立ち返って舞台を再現して全国的に取り上げられるくらいになっている。
- 鮭川歌舞伎に象徴されるように、地域の民俗芸能の団体、祭りや行事を行う皆さんが必死に技術を継承しなければいけないと頑張っておられるが、その背景には県の支援が非常に大きいと感じている。吉村知事をはじめ県も精神文化の振興に力を注いでおられ、

出羽百観音や米沢の草木塔、出羽三山の文化をはじめ、伝統芸能、民俗芸能、祭りにバックアップしてくださっている。ふるさと塾の取組みも平成 18 年から始まり今に続いており、誇りに思っている。

- 最近活動の中で見えてきたのが、表現の保障という観点で、展示発表、作品を創る、創れる、創作できる環境が乏しいことに気づいた。例えば宮城県は、県立美術館にはアトリエがあり、個人では出来ないような創作活動が保障されている。県内の美術館ではアトリエ機能がないため、置賜地域でそのような場づくりをしている。
- 事業を打っても届くべき人に届かない現状がコロナ禍以降目立ってきたと感じている。県でも様々な取組みを行っているのは十分承知しているが、届くべき人になかなか届かない。
- 鳥取県で 2025 年度に県立美術館が出来ると国内で県立美術館がないのが山形県だけになる。県立がないまま進めるのか、他県のように県立化する方向があるのか、博物館のこともあるので難しいと思うが、今後のお考え、ビジョンがあればお聞きしたい。
- コロナ禍後の今年は、ライトアップやプロジェクションマッピング等のイベントが増えていると感じる。県の事業にある羽黒山五重塔のプロジェクションマッピングに参加したが、観光客だけでなく地域の方々を巻き込んだ良い企画で、入れ替えになるくらいたくさんの方が出ている。現在、五重塔は屋根の改修で見ることが出来ないが、映像で楽しんでいただける工夫がされていた。夜間のみではなく、日中に見られる方への工夫があったら更に面白くなるのではと感じた。
- 個人的に県民芸術文化祭に参加させていただいたが、多くの団体で指導者と参加者の高齢化が進んでいると感じた。メンバーの募集に苦労している団体もあると思う。
- 小さな団体の活動でも、発表の場や練習会場の確保で非常に苦労している状況にあるほか、ポスターやパンフレットの作成、配布、チケット販売などの費用や労力も必要となるので、そうした団体の活動も応援してもらえるといいと思う。
- やまぎん県民ホールという都会から大きな団体を呼べる素晴らしい施設が建ったが、地域の小さな団体の、活動や発表の場に目を向けていただけるとありがたい。また、歴史・文化等を引き継ぐ小さな習い事や地域での小さなコミセン単位の習い事にも支援してもらえるといいと思う。
- 4 月くらいからインバウンドが戻ってきている。このコロナ禍の間に進んだ良いことは多言語化。QR コードを読み込むと英語で作品の説明を見ることができ、また、美術館や観光施設で携帯から多言語で色々楽しめるコンテンツが増えてきている。
- 一方で、英語人材が育っていない。言葉が通じなくて困っている方が多い。インバウンドを呼び込むには、特に旅館業、宿泊施設の問題が一番大きい。安心して泊まれる施設が、人材教育も含めて必要と感じている。
- インバウンドが戻っている分、ガイドや英語人材と旅行客をつなぐところでトラブルが発生しているように思う。これから更に山形に流れてくると思うので、もう少し整理していかなければ大変になってくるのではないかと思う。
- 観光施設・歴史的建造物の前にホテルが建ったり看板が建ったりして景観が損なわれ

ることが近年出ているように思う。

- 陶芸制作や伝統和紙の保存会など様々な活動をしている。芸術文化の推進と言ってもとても幅が広いと思っている。
- 新県民会館も出来て、世界的な音楽や演劇なども見られる山形県、そして土着的な文化もいまだに残る素晴らしい山形県であるといつも感じているが、どの活動をしていても担い手不足を感じている。芸術文化の活動もそこが一番大事な部分と感じており、今後も力を入れていただけることを願っている。

- 昨年、国の方針を基に文化財保存活用に向けた大綱が制定され、文化財が観光面などでより多くの人への活用、それを元に保存に結び付けるといった方針ができ、日本も世界の水準に肩を並べてきたと感じている。ヨーロッパに山形のお客様を案内するたびに、歴史の深い古城やワイン蔵などをホテルやレストランに活用したりしているのを目にし、日本にもそういった活用の仕方が出来ればと思っていたので、非常に嬉しく思う。
- 資料2に掲載の「日本遺産魅力発信事業」では、県で重点的にPRしているが、人を呼び込む具体的な動きに結び付けるため、日本遺産の山寺と紅花で、今年11月下旬に文化財活用地域交流ツアーのような形で山形空港から徳島県にチャーター便を運航する運びとなった。徳島県は藍染が非常に有名で日本遺産に指定されており、日本を代表する2つの色、藍と紅を対した交流を投げかけたところ実現した。
- 文化財を介在してお互いの地域の往来が生まれ、山形県外の人にも山形の文化財を知っていただき、様々な交流人口が増えていく、文化財も保存出来ていくという具体的な流れを、民間レベルにおいても推進していくべきと考えている。先程、他の委員から地元の方のモチベーションとの話があったが、地域の方のやりがい、何のためにやるのかといったところからできてくるのではと思う。このような仕組みをさらに推進していきたい。県からも支援をお願いしたい。

- 山形県の芸術文化活動全体を眺めてみると、コロナ禍で一時は活動できない状況があり、ようやく戻ってきたと認識している。しかし、芸術文化の担い手の人たち、特に高齢の人たちはコロナ禍を機にやめてしまい、戻ってこない状況がある。
- 先程他の委員から話があったように、芸術文化の世界では60代は若手。文化活動の担い手は、40代になると仕事や子育てが忙しくて活動できない状況になって、60歳を過ぎてまた時間が空いたからやるというパターンが多いため60代は若手となる。その若手が、働く年齢がどんどん上がり活動できなくなっている状況にある。
- 子どもたちを育てていかなければならないが、子どもの人口が減り、実は文化だけではなくスポーツに関して本当に担い手がない現実がある。中学校の部活動の地域移行の問題もあるが、スポーツも含めた大きい視野でこれからの山形の若い人たちをどう育てていくか、大きな課題があると思っている。
- 子どもたちも近年は余暇を色々な事で楽しめる・使える状況にあるため、文化活動になかなか来ない。スポーツも時間的に拘束される部にはなかなか行かないと聞く。
- 学校現場では部活動の地域移行で様々な問題となっているが、部活動が全員加入から任意加入に変わり、中学校の部活はずいぶん減った。もともと人数が少ない中でどうやっ

て育てていくか。

- 県民ホールができ、山形の芸術文化活動は大きく変わった。これまでは東京や仙台に行かないと見られないものが山形で見られるようになった。昔は入場料が高いと客が入らず、値段の設定に頭を痛めていたが県民ホールでは入場料金が高くても人が入る状況になってきた。

その一方で、アマチュアの活動にしわ寄せがきている。良いものを見たければお金を出せばいいので、アマチュアの公演に足を運ぶ人が少なくなっている。

- 県の文化振興の予算が、アマチュアの文化活動を育てるところにもう少し応援があったらいいのではないかと思う。
- 伝統芸能などの活動が、最近、観光に結び付けないと成り立たないという状況があり、本来の伝統芸能の育て方として、おかしいのではないかと感じている。

伝統芸能は、もっと生活に密着して自分たちの生活を維持するため、生活を豊かにするためにあったはずだが、守らなければいけないからといった想いでやっているのではと感じている。うまい具合に育てる方法はないのかと思っている。

- 山形県内で色々な文化活動をしている方や活動を始めてみたい方には、若い方、高齢の方、障がいのある方など様々な方がいるので、サポートがとても大事なことだと思う。助成金だけでは今活動している人が続けるためにしかないのでは、始めてみたい人がどうしたらいいか相談に行ける窓口が各市町村などにあると理想的だと思っている。公共性が必要であるため、各市町村の文化施設の相談窓口など、今あるものの活用や研修するなどして設置できることが現実的と思う。
- コーディネーターはまだまだ認知されていないものの、その役割を持つ人が各地域にいることで、人が繋がって回っていくと思う。中間支援やコーディネートをする人がいて、話を聞いて、ここと繋げてみよう、こういう企画してみようなど色々な事が繋がって回っていくといいと思う。
- 施設は障がいのある方の視点からアクセシビリティで検証することで、利用しやすくなる。車いすの方だけではなく、様々な障がいがある人に合わせて考えていくと実は皆さんが利用しやすくなるという視点で色々なことが検証出来たらいい。
- これから博物館の整備があると思うが、高齢の方や障がいのある方など色々な人が入って話し合ったり、ワークショップをするなどして検証してみるのも一つ出来ることだと思う。文化庁の委託事業で、奈良県のミュージアムのアクセシビリティと教育・普及に関する調査報告が出されている。山形県も文化庁事業に手を挙げてみると活用できるのではないか。

- 文翔館の入館者数はコロナ禍で落ち込んだが、現在はだいぶ持ち直している。8月の入館者数が2万人を超えてコロナ禍をかなり上回った。これは花笠まつりが通常開催になったこと、テレビ番組で紹介され、それを見て夏休みに来たお客さんが多かったことがある。旅行でこられた方が多く、人が流れていると感じている。ここ1、2年でフォトウエディングの撮影をされる方も増えてきている。
- 今年はインバウンドも増えている。冬場は東南アジア系、台湾人が多かったが、春先からは欧米系の方も含めて来ている。

英語表記が少なかったため、外国語表記のホームページの内容の充実を図っており、英語版のほか、中国語・韓国語についても見直している。

- ギャラリー利用者は高齢化してきていると感じられるため、担い手の確保は非常に大事だと思う。
- 計画の第5章の「推進体制」において、生涯学習文化財団が「県内文化振興の中核的な役割を担い」と書いてあるが、県の機関ではないため、中核的な役割はどのようなのだろうかと思う。見直しをお願いしたい。

- コロナ禍の影響で4年間お茶会が開催できなかった。先日、山形市内でお茶会が開かれ、どのくらいの参加者が来られるのかと思ったが、500名を超える人が来られたとのこと。皆さんがこのようなイベントに飢えていたのではないかと思う。非常に心強く感じた。
- 委員の皆さんの分野もおそらくもう一回掘り起こしてみればもっと需要があると思う。山形の文化度は東北随一であり、重要文化財の数も東北で最も多い県なので、自信をもって文化活動を行っていただきたい。

- 東北6県の中でも山形の文化度は高いと思う。山形では華道、茶道、日本舞踊など、各ジャンルが流派を超えてみんな仲良く前向きに取り組んでいる。流派を超えて一緒に取り組んでいるのはすごいこと。
- 県民芸術祭も他県ではできないようなまとまりで実施している。そのことを山形の人も気づいていない。他県の人と話しをするとびっくりされる。このことから山形県内での芸術文化活動はうまいこと進んでいると認識している。

- 自治体でDXの取組みが進んでいる。NFTアートはふるさと納税との相性がよく、各自治体でも取り組んでいる例が多い。山形県内ではまだまだのようだが、県内出身の漫画家や絵本作家が多いので、取組みやすいと思う。